

## 工学研究マネージメント学習プログラム

工学府の博士課程後期に進学した学生は、日々研究能力を高め、知識を深め、やがて博士論文を提出し、研究者として社会に巣立っていきます。社会に出たらすぐに一人前の研究者として扱われ、即戦力として期待されます。「研究実行能力」は即戦力として十分な資質を大学院で培っていると思いますが、果たして「研究企画能力」や「研究成果をアピールする能力」はどうでしょうか。工学府ではそこに少し問題があるのではないかと考え、平成17年度、申請して交付された学長裁量経費に工学研究院長裁量経費を併せ、総額750万円によって、工学府教務委員会を主務委員会として標記のプログラムを行いました。

このプログラムは、科目としては「特別研究」2単位に相当します。

まず、学生からの「研究の企画」の募集から始まりまし。これは、博士論文のために行っている研究とは少し異なる、「普段から気になっている研究テーマ」であることを条件にしました。つまり、学生自らが企画したテーマです。応募について専攻長会議で審査を行い、採否を決定しました。17年度は募集28件に対して応募が30件であり、審議の結果全申請を採択しました。

学長裁量経費の交付以降の活動ですので、その後約半年間の研究期間を経て、3月末に成果発表会を兼ねたシンポジウムを企画・開催し、成果報告書を作りました。この間、自ら研究費を使って消耗品を購入して研究を遂行し、学会出席の手続きを行い、成果報告書はどのように作ってどこに配布するか、シンポジウムでどなたに講演や挨拶をお願いするか、ポスター発表はどうするか、会場は、日時は、等々、研究の企画立案・経費申請・研究実行・成果報告会の開催・成果報告書作成、と、通常は社会に出て相当経ってから経験するような研究の一連の流れをすべて体験しました。

その成果は多くの学会発表・論文発表に結びつきましたが、素晴らしいことに、学生のオリジナルの研究アイデアが大きな成果に結びつき、独立法人と共同の特許申請および共同研究に結びついたものが出ました。本プログラムによって博士課程後期の学生が得たい経験をするのみでなく、若い頭脳のひらめきと実行力を掘り起こすことができました。今後もこのプログラムによって、後期課程学生の総合的な研究遂行能力が磨かれることが期待されます。

横浜国立大学大学院  
工学研究マネージメント  
学習プログラムシンポジウム  
主催：工学研究マネージメント学習プログラム シンポジウム実行委員会

日時：平成18年3月14日（火） 13:00~17:00  
場所：横浜国立大学中央図書館  
メディアホール（招待講演）  
情報ラウンジ（ポスターセッション）  
参加費：無料

プログラム  
13:00 開会の辞 代表 谷 泰  
ごあいさつ 白鳥 正樹 工学研究院長  
13:20 招待講演  
親睦機構代表取締役社長・(社)横浜市工業会連合会 副会長 前野 浩 氏  
横浜国立大学産学連携推進本部 副本部長 中野 孝昭 教授  
15:00 ポスターセッション  
ポスター展示 計30テーマ  
機能発現工学専攻 9名 システム統合工学専攻 2名  
社会空間システム工学専攻 10名 物理情報工学専攻 9名

お問い合わせ先  
代表 谷 泰 (博士後期課程二年)  
横浜国立大学大学院工学府 機能発現工学専攻 物質創製化学コース 橋山 泰 研究室  
e-mail: q04sai04@ynu.ac.jp tel: 045-339-3970

